

- 28 公共事業労働費調査に対する協力
受注者は、当該工事が発注者の実施する公共事業労働費調査の対象工事となった場合には、以下の各号に掲げる協力をしなければならない。
(1) 調査票等に必要事項を正確に記入し、発注者に提出する等必要な協力をしなければならない。
(2) 調査票等を提出した事業所が発注者が、事後に訪問して行う調査・指導の対象になった場合には、その実施に協力しなければならない。
(3) 正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法等に従い就業規則を作成すると共に貸金台帳を調製・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行わなければならない。
(4) 対象工事の一部について下請契約を締結する場合には、当該下請工事の受注者（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む。）が前号と同様の義務を負う旨を定めなければならない。

- 29 建設発生土の処理
場外指定場所に搬出し、搬出後、監督職員へ搬出先の受入を証明する資料を提出する。
搬出場所 ()
受入条件 ()
仮置き場 ()
土壌汚染のおそれ ()
分析調査 ()
調査対象 ()
場内指定場所に敷き均し ()
場内指定場所に堆積 ()
なお、受注者の提示する運搬距離、処分費及び接地費と異なる場合においても設計変更の対象としない。
※場外搬出処分の場合は、第9章の1による

2章 仮設工事
2.1 足場その他

- 内部足場の種別
外部足場の種別
手すり先行足場の設置
工事で設置する足場については、標準仕様書2.2.4(2)によるほか、「手すり先行工法等に関するガイドライン」(厚生労働省平成21年4月)により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さ及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立てや解体等の作業は「手すり先行工法による足場の組立てに関する基準」の(2)手すり設置方式、又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。
屋根面からの墜落事故防止対策として、必要に応じて、JIS A9971(屋根工事用足場及び施工方法)に基づき、建方作業台や墜落防護さく等を設置する。
※外部足場の防護シートによる養生
養生シート ()
騒音・粉じん等の対策 ()

- 2.2 材料、撤去材等の運搬
種別
C種 利用可能なエレベーター
D種 利用可能な階段

- 3 既存部分の養生
既存部分の養生方法
既存家具、既存設備等の養生方法
工用通路の養生方法
固定された備品、机、ロッカー等の移動
既存ブランチ、パイプ等の養生
既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれのある場合は養生を行う。また、万一損傷等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。

- 4 仮設間仕切り及び仮設扉の設置箇所
仮設間仕切りの種別と材質等

Table with 4 columns: 種別, 仕上げ(厚さmm), 塗装, 充填. Rows include A種 (セッコウボード), B種 (合板), C種 (防炎シート).

- 5 監督職員事務所
規模、仕様
備品等(標準仕様書によるほか下記による)
机、椅子、ゴム長靴、雨がっぱ、保安帽、墜落制止用器具、更衣ロッカー
以上は監督職員 1人分
書籍、白板、掛時計、寒暖計、懐中電灯、受注者加入電話の子機、消火器、冷暖房機器、パソコン (インター接続:)
以上は各1ヶ

- 6 監理事務所
規模、仕様
備品等
机、椅子、ゴム長靴、雨がっぱ、保安帽、墜落制止用器具、更衣ロッカー
以上は 1人分
書籍、白板、掛時計、寒暖計、懐中電灯、受注者加入電話の子機、消火器、冷暖房機器、パソコン (インター接続:)
以上は各1ヶ

- 7 工事用水
構内既存の施設
利用できない
利用できる ()

- 8 工事用電力
構内既存の施設
利用できない
利用できる ()

- 3章 防水改修工事
1 施工数量調査
調査範囲
調査方法
既存部分の破壊を行った場合の補修方法
調査報告書
提出部数

- 2 降雨等に対する養生方法(とい共)
改修標準仕様書3.1.3(5)(7)~(9)による

- 3 既存防水の処理
既存保護層の撤去
既存防水層の撤去
既存露出防水層表面の仕上げ塗装の除去

- 4 既存下地の処理
既存下地の補修箇所の形状、長さ、数量等
POS工法及びFPOS工法(機械的固定方法)の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の処理
改修標準仕様書3.2.6(4)(7)(g)①~③による
設備機器架台、配管受部、バネ、貫通パイプ回り、手すり・丸環の取付部、塔屋出入口部等の欠損部及び防水層未端部の納まり部の処理

- 5 試験
施工完了後の満水試験
(アスファルト防水、改質アスファルト防水、合成高分子系ルーフィングシート防水、塗膜防水の場合)

Table with 4 columns: 改修工法, 種別, 施工箇所, 断熱材[G], 絶縁用シート. Rows include P2A, PIB, P2AI, PIBI.

- 改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
標準仕様書3.3.3から表3.3.9による
用途による区分
材料による区分
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
標準仕様書3.3.3から表3.3.9による
用途による区分
材料による区分
平場の保護コンクリートの厚さ
立上り部の保護工法
乾式保護材(品質、性能、試験方法)建築材料等品質性能表による
薬業系バネI類(厚さ)幅
れんが押え
コンクリート押え
モルタル押え(屋内)

Table with 4 columns: 工法, 種別, 施工箇所, 断熱材[G], 仕上塗料, 高日射放射率防水の適用[G], 備考. Rows include M4C, M3D, POD, PODI, N3DI, N4DI.

- 改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
標準仕様書3.3.3から表3.3.9による
用途による区分
材料による区分
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
標準仕様書3.3.3から表3.3.9による
用途による区分
材料による区分
屋根露出防水絶縁工法及び屋根露出防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
種類
脱気装置
屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ルーフィングシート及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置

Table with 4 columns: 工法, 種別, 施工箇所, 保護層. Rows include PIE, P2E.

7 改質アスファルトシート防水

Table with 4 columns: 工法, 種別, 施工箇所, 断熱材[G], 仕上塗料, 高日射放射率防水の適用[G], 備考. Rows include M4AS, M3AS, P0AS, M3ASI.

- 改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による
用途による区分
材料による区分
非露出単層防水用
露出単層防水用
非露出複層防水用
露出複層防水用

- 粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による
用途による区分
材料による区分
非露出単層防水用
露出単層防水用
非露出複層防水用
露出複層防水用

- 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
改修標準仕様書3.4.1から表3.4.3による
用途による区分
材料による区分
非露出単層防水用
露出単層防水用
非露出複層防水用
露出複層防水用

- 立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
屋根露出防水絶縁工法及び屋根露出防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
種類
設置数量
絶縁断熱工法の防風用シートの設置

8 合成高分子ルーフィング防水

Table with 4 columns: 工法, 種別, 施工箇所, 断熱材[G], 仕上塗料, 高日射放射率防水の適用[G], 備考. Rows include POS, S4S, S3S, M4S, S3SI, SI-F1, SI-F2, SI-M1, SI-M2.

- S-F1、S-M1、S-F2、S-M2の仕様
S-M1及びSI-M2の場合の防風用714mmの設置

屋内防水

Table with 3 columns: 種別, 施工箇所, 保護層. Rows include S-C1, PIS.

- 床塗りの場合の床の目地
目地割り
目地の種類
ルーフィングシートの種類及び厚さ
改修標準仕様書3.5.1から表3.5.3による
JIS A 6008に基づく種類及び厚さ
種類
厚さ
絶縁用シート
発泡ポリイソシアネート
固定金具の材質及び寸法形状
厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はこれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもの
接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量
種類
設置数量
接着工法の場合のプレキャストコンクリート部材下地の目地処理
図示による
プレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り(種別S-F1、SI-F1の場合)
行う ()
行わない ()
機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け
1章 適用区分による風圧力の () 倍の風圧力に対応した工法

9 塗膜防水

Table with 4 columns: 工法, 種別, 施工箇所, 仕上塗料, 高日射放射率防水の適用[G], 備考. Rows include POX, L4X.

- ルチウム系塗膜防水X-1(絶縁工法)の脱気装置の種類及び設置数量
種類
設置数量
主材料の製造所の仕様による
主材料の製造所の仕様による

Table with 4 columns: 工法, 種別, 施工箇所, 工程数及び各工程の使用量, 保護層. Rows include P1Y, P2Y.

10 シーリング (3.1.4) (3.7.2~8)

シーリング 改修工法の種類

- シーリング 充填工法
シーリング 再充填工法
拡張シーリング 再充填工法
ブッシング工法
ボンドブリーダー張り
エッジング材張り

シーリング材の種類、施工箇所

下記以外は(表3.7.1)による

Table with columns: 施工箇所, シーリング材の種類(記号), 器具-躯体取合い, 室内各部, MS-2

仕上げを行わない施工箇所

- シーリング材の目地寸法
目地寸法
打継ぎ目地
ひび割れ誘発目地
ガラス回り目地
その他の箇所
目地位置

シーリング材の試験

- 簡易接着性試験
引張接着性試験

11 とい (3.8.2, 3) (表3.8.1)

といその他の材質

- 配管用鋼管
硬質塩化ビニル管
表面処理鋼板(表面及び裏面の塗膜の種類)

とい受金物

- 材質
改修標準仕様書3.8.2による(溶融亜鉛めっきを行ったもの)

形状

- 市販品(とい径100以下)
25mm以上(とい径100を超えるもの)

取付け間隔

- 改修標準仕様書3.8.2による

足金物

- 材質
改修標準仕様書3.8.2による(溶融亜鉛めっきを行ったもの)

形状

- 市販品

取付け間隔

- 改修標準仕様書3.8.2による

多雪地域の適用

- 防露材の設置量
既存のといその他の撤去及び降雨等に対する養生方法
鋼管製といの防露巻き

ルーフトレンの種類及び呼び

Table with columns: 種類, 呼び, 施工箇所. Lists types like 1型, 2型 and their dimensions.

たてとい受金物の取付け

- ルーフトレンの取付け

12 アルミニウム製笠木 (3.9.2, 3)

種類

- オープン形式
板材折曲げ形

表面処理

- 種別
色合等
標準色
特注色

4章 外壁改修工事(共通事項・材料)

1 施工数量調査 (1.6.2, 3)

調査範囲

調査内容

Table with columns: 項目, 調査内容. Includes items like 凸凹, 浮き, 剥離・剥落, 塗り仕上げ.

4-1章 外壁改修工事(コンクリート打直し仕上げ外壁改修) (4.1.4) (4.2.4~8)

1 ひび割れ部改修工法

Table with columns: 工法の種類, ひび割れ幅(mm), 注入口間隔(mm), 注入量(ml/m). Lists automatic and manual methods.

注入状況の確認方法

- 抜き取り個数
抜き取り部の補修方法

ウレタン材充填工法

- シーリング材
可とう性ポリアクリル樹脂

2 欠損部改修工法

- 鉄筋等の防錆処理
充填工法

4-2章 外壁改修工事(モルタル塗り仕上げ外壁改修)

1 既存モルタル塗りの撤去

- 行う
撤去後の処理

2 ひび割れ部改修工法

- 既存モルタル塗りの撤去
範囲

3 欠損部改修工法

- 鉄筋等の防錆処理
充填工法
モルタル塗替え工法

4 浮き部改修工法

Table with columns: 工法の種類, アフォービンの本数, 注入口の箇所数, 注入量. Includes sections for 部分塗り, 全面塗り, and 浮き部.

アフォービンの材質

- ステンレス鋼(SUS304)呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの
注入口付アフォービンの材質

注入工法用材料

- ポリアクリル樹脂
ポリアクリル樹脂

充填工法用材料

- ポリアクリル樹脂
ポリアクリル樹脂

モルタル塗替え工法用材料

- 現場調査材料
既調合材料

既製目地材

- 使用する
仕上厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処理

4-3章 外壁改修工事(タイル張り仕上げ外壁改修)

1 既存タイル張りの撤去

- 行う
撤去範囲

撤去後の処理

- 「4-1.1ひび割れ部改修工法」の後、「4-3.3欠損部改修」を行う。
「4-2.2ひび割れ部改修工法」の後、「4-3.3欠損部改修」を行う。

タイルの形状、寸法

Table with columns: 施工箇所, 種類, 形状/寸法, 再生材の適用, 吸水率, etc.

標準的な曲がりの役物は一体成形とする。

- 見本焼き
試験張り

2 ひび割れ部改修工法

1 樹脂注入工法

Table with columns: 工法の種類, ひび割れ幅(mm), 注入口間隔(mm), 注入量(ml/m). Lists automatic and manual methods.

注入状況の確認方法

- 抜き取り個数
抜き取り部の補修方法

3 欠損部改修工法

- 1㎡当たりの張替え面積が0.25㎡を超える場合の工法

タイル部分張替え工法

- 接着剤の種類
タイル張替え工法

伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

- 改修標準仕様書表4.4.2による

外装タイル張り下地等の下地

- タイル張りの工法
外装タイル
タイル張りの工法

有機系接着剤によるタイル

- 下地への塗り
目荒らし工法

シーリング材の種類

- 打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地
伸縮調整目地その他の目地

4 浮き部改修工法

Table with columns: 工法の種類, アフォービンの本数, 注入口の箇所数, 注入量. Includes sections for 部分塗り, 全面塗り, and 浮き部.

アフォービンの材質

- ステンレス鋼(SUS304)呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの
注入口付アフォービンの材質

充填工法用材料

- ポリアクリル樹脂
ポリアクリル樹脂

モルタル塗替え工法用材料

- 現場調査材料
既調合材料

既製目地材

- 使用する
仕上厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処理

タイル張りの工法

- 目荒らし工法
外装タイル
タイル張りの工法

有機系接着剤によるタイル

- 目荒らし工法
シーリング材の種類

打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地

- 伸縮調整目地その他の目地
シーリングのその他事項は、改修特記仕様書3章 防水改修工事による

5 目地改修工法

- 目地ひび割れ部改修工法
伸縮調整目地改修工法

シーリングは、改修特記仕様書3章

4-4章 外壁改修工事(塗り仕上げ外壁改修)

1 既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整

Table with columns: 工法, 処理範囲, 下地面の補修. Lists methods for removal and repair.

2 下地調整

- 下地調整塗材

3 仕上塗材仕上げ

- 薄付け仕上塗材
厚付け仕上塗材

4 複層仕上塗材

Table with columns: 種類(呼び名), 仕上げの形状, 工法, 上塗り, 防火材料.

5 可とう形改修仕上塗材

Table with columns: 種類(呼び名), 仕上げの形状, 工法, 上塗材の種類, 耐火性, 防火材料.

6 マスチック塗材塗り

- A種
B種

7 外壁用塗膜防水塗り

- 仕上げの形状
工法
仕上塗材の耐火性
下地準緩衝材の適用

8 吹付け工法の模様材の種類

- 見本と同様の模様で均一に仕上げる
弱溶剤形2液ポリウレタン樹脂塗料

5章 建具改修工事 (5.1.3)

Table with 4 columns: 建具の種類, かぶせ工法, 撤去工法, 適用箇所. Lists materials like アルミ製建具, 樹脂製建具, 鋼製建具, etc.

新規に建具を設置する場合
壁部分の開口の開け方
新規建具周囲の補修工法及び範囲
建具周囲のシーリングは、改修特記仕様書3章防水改修工事による

2 防火戸 (5.1.4)
指定する 適用箇所 (建具表による)
指定しない
防火戸の自動閉鎖機構及び「ス」装置、熱感知器又は煙感知器との連動
連動させる (建具表による)
連動させない

3 見本の製作等 (5.1.5)
建具見本の製作 建具符号：
建具見本の目的等
工事に使用するものとして、あらかじめ製作する
納まり等が分かる程度のもの
特殊な建具の仮組 建具符号：

4 防犯建物部品 (5.1.7)
適用する (建具表による)
適用しない

5 アルミニウム製建具 (5.2.2~5)(表5.2.2)
性能値等
耐風圧性の等級 ()
(建具符号 建具表による)
気密性の等級 ()
(建具符号 建具表による)
水密性の等級 ()
(建具符号 建具表による)
外部に面する建具の種類
A種 (建具符号 建具表による)
B種 (建具符号 建具表による)
C種 (建具符号 建具表による)
枠の見込み寸法
(建具表による)
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級 ()
(建具符号 建具表による)
断熱ドア・断熱サッシ[G]
断熱性の等級 ()
(建具符号 建具表による)
材料
ステンレス鋼板 ※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1
ステンレス製のくつずりの仕上げ ※ HL
形状及び仕上げ
表面処理
外部に面する建具
種類 BB-1 BB-2(改修標準仕様書5.2.2)
着色 標準色 特注色
屋内の建具
種類 BC-1 BC-2(改修標準仕様書5.2.2)
着色 標準色 特注色
結露水の処理方法
水貯め式 排水式
工法
水切り板、ぜん板 ※ 図示による

Table with 4 columns: 種類, 材種, 線径, 網目. Lists mesh types like 防虫網, ガラス繊維入り合成樹脂製, ステンレス(SUS316)製, 防鳥網.

Table with 4 columns: 種類, 材種, 線径, 網目. Lists mesh types like 防虫網, ガラス繊維入り合成樹脂製, ステンレス(SUS316)製, 防鳥網.

6 樹脂製建具 (5.2.2)(5.3.2~5)
性能値等
耐風圧性の等級 ()
気密性の等級 ()
水密性の等級 ()
外部に面する建具の種類
A種 (建具符号 建具表による)
B種 (建具符号 建具表による)
C種 (建具符号 建具表による)
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級 (T-1 T-2)
(建具符号 建具表による)
断熱ドア・断熱サッシ[G]
断熱性の等級 (H-4 H-5 H-6 H-7 H-8)
(建具符号 建具表による)
外部に面する建具の日射熱取得性の等級
枠の見込み寸法
(建具表による)
材料
ガラス ※ 複層ガラス
ステンレス製のくつずりの仕上げ ※ HL
形状及び仕上げ
表面色 標準色 特注色
工法
水切り板、ぜん板 ※ 図示による

7 鋼製建具 (5.2.2)(5.4.2~4)(表5.4.2)

性能値等
簡易気密型ドアレット
適用する (建具符号 建具表による)
適用しない
外部に面する鋼製建具の耐風圧性
耐風圧性の等級 ()
(建具符号 建具表による)
遮音性の等級 ()
(建具符号 建具表による)
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級 ()
(建具符号 建具表による)
断熱ドア・断熱サッシ[G]
断熱性の等級 ()
(建具符号 建具表による)
耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

材料
ステンレス製くつずりの仕上げ ※ HL
ステンレス鋼板 ※ SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1
形状及び仕上げ
鋼板の厚さ ※ 改修標準仕様書5.4.2による mm
標準型鋼製建具の形式及び寸法
※ 建具表による

8 鋼製軽量建具 (5.2.2)(5.5.2~4)
性能値等
簡易気密型ドアレット
適用する (建具符号 建具表による)
適用しない
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級 ()
(建具符号 建具表による)
断熱ドア・断熱サッシ[G]
断熱性の等級 ()
(建具符号 建具表による)
耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

材料
鋼板の種類 ※ 亜鉛めっき鋼板、ヒニ被覆鋼板、ガル鋼板、ステンレス鋼板
ステンレス鋼板 ※ SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1
召合せ、縦小口包み板の材質 ※ 鋼板
ステンレス製のくつずりの仕上げ ※ HL
形状及び仕上げ
鋼板の厚さ(mm)
改修標準仕様書5.5.1による
mm 使用箇所 ()
標準型鋼製軽量建具の形式及び寸法
※ 建具表による

9 ステンレス製建具 (5.2.2)(5.4.2)(5.6.2~5)
性能値等
簡易気密型ドアレット
適用する (適用箇所 ※ 図示)
適用しない
外部に面する建具の耐風圧性
耐風圧性の等級 ()
(建具符号 建具表による)
遮音性の等級 ()
(建具符号 建具表による)
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級 ()
(建具符号 建具表による)
断熱ドア・断熱サッシ[G]
断熱性の等級 ()
(建具符号 建具表による)
耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

材料
ステンレス鋼板 ※ SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1
ステンレス製のくつずりの仕上げ ※ HL
形状及び仕上げ
表面仕上げ ※ HL 鏡面仕上げ
工法
ステンレス鋼板の曲げ加工 ※ 普通曲げ 角出し曲げ

10 木製建具 (5.7.2~4)
建具材の加工、組立時の含水率 ※ A種
建物内部の木製建具に使用する接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆

Table with 3 columns: 合板の種類, 規格等, 備考. Lists materials like 普通合板[G], 天然木化粧合板[G], 特殊加工化粧合板[G], MDF[G].

表面板の厚さ ※ 改修標準仕様書5.7.6による
引戸の召合せかまちのいんろう付きの適用
かまち戸 樹種 () 鏡板樹種 ()
見込み寸法 ※ 36mm 建具表による
ふすま 張りの種別 (I形 II型)
上張り(押入等の裏側以外) 鳥の子 新鳥の子又はヒニ紙程度
緑仕上 ※ 塗り緑 生地緑(素地) 生地緑(カクワリ塗り塗)
見込み寸法 ※ 19.5mm 建具表による
戸ふすま 表面板の仕上げ ※ 建具表による
見込み寸法 ※ 30mm 建具表による
紙張り障子 見込み寸法 ※ 30mm 建具表による
枠、くつずりの材料 ※ 建具表による

11 建具用金物 (5.8.2, 3)

金物の種類・見え掛り部の材質等 ※ 改修標準仕様書5.8.1による
金属製建具用丁番の枚数及び大きさ ※ 改修標準仕様書5.8.2による
樹脂製建具用丁番の枚数及び大きさ ※ 改修標準仕様書5.8.3による
木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※ 改修標準仕様書5.8.4による
木製建具に使用する戸車及びレール ※ 改修標準仕様書5.8.5による
握り玉、レバーハンドル、押板類、ハンドル取付位置 ※ 別表による
錠前類 【シリンダ箱錠及びリフト本錠】 別表による
ノブ類 別表による

12 鍵 (5.8.4)
マスター ※ 製作する ※ 既存のマスターに合わせる ※ 製作しない
その他の鍵の製作本数 ※ 3本1組
鍵箱 ※ 有 ※ 無

13 自動ドア開閉装置 (5.9.2, 3)
戸の開閉方式
建具表による
引き戸用駆動装置
性能値
改修標準仕様書5.9.1による (防錆の適用)
以下による
種類・開閉方式 ()
耐電圧 ()
温度上昇 ()
耐久性(付与) ()
防錆 ()
電源 ()
多機能仕出入口引き戸用駆動装置
性能値
改修標準仕様書5.9.2による (防錆の適用)
以下による
耐電圧 ()
温度上昇 ()
耐久性(付与) ()
防錆 ()
電源 ()
引き戸用検出装置
性能値
改修標準仕様書5.9.3による (防錆の適用)
以下による
耐電圧 ()
温度上昇 ()
防錆 ()
電源 ()

引き戸用検出装置の種類
建具表による
タッチスイッチの種類
無線式タッチスイッチ
光線式タッチスイッチ
車椅子使用者用便所スイッチの種類
大形押しボタンスイッチ
非接触スイッチ
凍結防止措置 ※ 行う ※ 行わない

14 自閉式上吊り引戸装置 (5.10.3)
性能値等
改修標準仕様書表 5.10.1 による
以下による ()
手動開き力 ()
手動閉じ力 ()
閉じ速度の調整 ()
制御区間 ()
開閉繰返し ()
耐衝撃性 ()

15 重量シャッター (5.11.2, 3)
シャッターの種類
管理用シャッター
外壁用防火シャッター
屋内用防火シャッター
防護シャッター
外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度 () Pa
開閉方式の種類 ※ 上部電動式(手動併用) ※ 手動式
安全装置
電動シャッターの急降下停止装置、急降下制動装置 (設置箇所 建具表による)
電動シャッターの障害物感知装置
設ける (設置箇所 建具表による)
設けない (設置箇所 建具表による)
屋内用防火シャッター若しくは防護シャッターの危害防止機構
設ける (設置箇所 建具表による)
設けない (設置箇所 建具表による)
管理用シャッターのシャッターケース
設ける ※ 設けない
スラット及びシャッター用鋼板
鋼板の種類
JIS G 3302(溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)
JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板鋼帯)
めっきの付着量
Z12またはF12
※ 2

シャッターの呼び寸法、まぐさ、雨掛りに用いる座板及び座板のカバー、雨掛りに用いるスイングタイプの材質
ステンレス鋼板 ※ SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1
シャッターの形状
シリンダ形 ※ オープンタイプ形

16 軽量シャッター (5.12.2~4)
開閉方式の種類 ※ 手動式 ※ 電動式(手動併用)
耐風圧強度() Pa
安全装置
電動シャッターの障害物感知装置 (設置箇所 建具表による)
スラットの材質の種類
JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)
めっきの付着量(※ Z06またはF06)
JIS G 3322(塗装溶融55%亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)
めっきの付着量(※ AZ90)
スラットの形状
シリンダ形 ※ オープンタイプ形

17 オーバーヘッドドア (5.13.2, 3)

Table with 5 columns: セリウム材料による区分, 耐風圧性能の区分, 開閉方式による区分, 収納形式による区分, ガイドレールの材料. Lists materials like スチール材, アルミ材, フェニクス, etc.

障害物感知装置を設けた電動式シャッターの設置箇所 ※ 図示
18 ガラス (5.14.2~4)
フロントガラスの品厚及び厚さの呼びによる種類 ※ 建具表による
型板ガラスの厚さによる種類 ※ 建具表による
網入板ガラス及び線入板ガラスの網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類 ※ 建具表による

合わせガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びにガラスの合計厚さによる種類 ※ 建具表による
落球衝撃はく離特性並びにショットペック衝撃特性による種類
I類 II-1類 II-2類 III類
強化ガラス
形状による種類、材料板ガラスの種類による名称 ※ 建具表による
破片の状態及びショットペック衝撃特性による種類 I類 III類
熱線吸収ガラス
板ガラスによる種類、厚さによる種類 ※ 建具表による
性能による種類 I類 II類
複層ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ ※ 建具表による
断熱性による区分 T1 T2 T3 T4 T5 T6
日射取得性、日射遮蔽性による区分 G S
乾燥気体の種類 空気 7%コン
熱線反射ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類 ※ 建具表による
日射遮蔽性による区分 1種 2種 3種
耐久性による区分(日射遮蔽性による区分が2種の場合) A類 B類
倍強化ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類 ※ 建具表による

Table with 3 columns: ガラスの留め材及び溝の大きさ, 建具の種類, ガラス留め材, ガラス溝の大きさ(mm). Lists materials like シリンダ材, グレインダ材, etc.

19 ガラスブロック (5.14.5)

Table with 6 columns: 呼び寸法(mm), 厚さ(mm), 色調, 目地幅(mm), 伸縮調整目地位置(mm), 防火性能. Lists sizes like 160x160, 200x200.

壁用金属枠及び補強材 ※ 図示
力骨 材質 ※ ステンレス鋼(SUS304)
寸法 ※ 5.5mm
形状 ※ はしご形状複筋及び単筋
化粧目地の色 (白 グレー)
シーリングの種類
SR-1 PS-1
金属材料の色
材質 ※ ステンレス製
7%コン製
寸法 ※ 図示
形状 ※ 図示
目地部の横力骨の納まり ※ ガラスブロック製造所の仕様による
※ 図示
工法 適用区分による風圧力の (※ 1 ※ 1.15 ※ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法

20 ガラスフィルム (5.12.2~4)

Table with 4 columns: 種類, 記号, 性能等. Lists types like 日射調整フィルム[G], 低放射フィルム, etc.

25 せっこうボード、その他ボード及び合板張り (6.13.2、3)

Table with columns for material types (種類等), thickness/specifications (厚さ(mm)、規格等), and fire resistance (防火種別). Includes items like wood cement board, gypsum board, and various board types.

Table for board types (合板類) with columns for material type, thickness/specifications, and fire resistance. Includes items like plywood, laminated board, and decorative board.

天井のボード類(ロック吸音板を除く)の重ね張りを行う場合 ※ 図示による合板類の張付け A種 ※ B種

26 壁紙張り (6.14.2、3)

Table for wallpapering (壁紙の種類) with columns for construction site (施工箇所), paper type (紙), fabric type (織維), and fire resistance (防火種別).

27 モルタル塗り (6.15.3、5、6)

Table for plastering (モルタル) with columns for material type, application method, and fire resistance. Includes items like on-site mixed material and pre-made plaster.

28 タイル張り (6.16.2~4)

伸縮目地の位置 床タイル (※ 縦、横とも4m以内にと 図示) 床タイル以外 (図示)

Table for tile laying (タイルの形状、寸法等) with columns for construction site, type, shape, and fire resistance.

標準的な面がりの役物は一体成形とする 既製調合モルタルは別表による

Table for tile laying (タイルの形状、寸法等) with columns for construction site, type, shape, and fire resistance.

Table for tile laying (タイルの形状、寸法等) with columns for construction site, type, shape, and fire resistance.

29 セルフレベリング材塗り (6.17.2、3)

厚さ () mm 屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆

7章 塗装改修工事 (7.1.3)

1 材料 (7.1.3)

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆

2 下地調整 (7.2.1~7)

Table for underlayment adjustment (下地調整) with columns for underlayment type, adjustment type, and repair type.

3 素地ごしらえ (7.3.2~7)

Table for surface preparation (素地ごしらえ) with columns for underlayment type, type, and fire resistance.

4 錆止め塗料塗りの種別 (7.4.2、3)

Table for rust prevention coating (錆止め塗料塗りの種別) with columns for surface type, coating type, paint type, and engineering type.

5 塗装 (7.5.2~7.13.2)

Table for painting (塗装) with columns for coating type, surface type, engineering type, and new type.

高日射反射率塗料塗り [G] 下地調整(改修標準仕様書7.2.2) RA種 ※ RB種 ※ RC種

Table for painting (塗装) with columns for engineering type, specification number, and paint type.

9章 環境配慮改修工事 (9.1.1、3~6)

1 石綿含有建材の除去工事 (9.1.1、3~6)

測定室 () 成形板の除去の際は、原則として粉じん濃度測定を実施しない。

アベス粉塵濃度測定の実定時期、場所、及び測定点

Table for asbestos removal (アベス粉塵濃度測定の実定時期、場所、及び測定点) with columns for application, measurement name, measurement time, measurement location, measurement point, and remarks.

石綿粉塵濃度測定方法 ※ 自動測定器による測定

Table for asbestos removal (石綿粉塵濃度測定方法) with columns for measurement name and measurement method.

Table for asbestos removal (IIS K 3850-11に基づいた測定) with columns for measurement name, diameter, flow rate, and suction time.

石綿作業主任者 石綿作業主任者技能講習修了者又は平成18年3月以前の特定化学物質作業主任者の有資格者の内から選任し、法令に基づき、作業の方法、労働者の指導等必要な措置を行うこと。

石綿含有建材の処理

石綿含有吹付け材の除去 除去対象範囲 ※ 図示 除去工法 ※ 改修標準仕様書9.1.3(2)(7)による

石綿含有保温材等(石綿含有けい酸カルシウム板第二種含む)の除去 除去対象範囲 ※ 図示 除去工法 ※ 破壊して除去 ※ 手ばらし

石綿含有成形板(石綿含有けい酸カルシウム板第一種)の除去 除去対象範囲 ※ 図示 隔離養生(負圧不要)方法 ※ 図示

石綿含有成形板(石綿含有けい酸カルシウム板第一種以外)の除去 除去対象範囲 ※ 図示 石綿含有せっこうボード ※ 埋立処分(管理型最終処分場)

石綿含有仕上塗材又は石綿含有成形板(下地調整材)の除去 除去対象範囲 ※ 図示による ※ 全面撤去 ※ 外壁補修箇所等作業箇所のみ撤去 ※ 図示による

養生方法 除去工法の試験施工 ※ 行う ※ 行わない 除去した石綿含有仕上塗材の処分 ※ 埋立処分(安定型最終処分場) ※ 埋立処分(管理型最終処分場) ※ 中間処理(溶融施設又は無害化処理施設) ※ 図示

2 石綿含有建材の除去工事等に係る官庁等への届出 (9.2.2~3)

労働安全衛生法に基づく届出 石綿障害予防規則に基づく届出 大気汚染防止法に基づく届出

3 断熱アスファルト防水改修工事 (9.2.2~3)

改修特記仕様書3章による

4 外断熱改修工事 [G] (9.2.1~4)

Table for external insulation (外断熱改修工事) with columns for material type and thickness (mm). Includes items like EPS board, mineral wool, and rigid foam.

鋼材 改修特記仕様書第8章8-3鉄骨工事 ※ 鋼材による

笠木 改修特記仕様書第3章 ※ 70mm製笠木による

既存外壁の処置 既存外壁仕上げ材の撤去 ※ あり ※ なし 下地面の清掃 ※ 行う ※ 行わない

欠損部の改修工法 ※ 改修特記仕様書第4章外壁改修工事による

1章 適用区分による風圧力の (※ 1 ※ 1.15 ※ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法

不陸等の下地調整 ※ 断熱材製造所の仕様による

断熱材の施工 ※ 断熱材製造所の仕様による

外装材の施工 ※ 外装材製造所の仕様による

通気層の有無 ※ あり (mm) ※ なし

外装材の外壁への取付け ※ 図示 ※ なし

笠木の施工 ※ 改修特記仕様書第3章70mm製笠木による

5 断熱・防露改修工事[G] (9.3.2~4)

フォーム断熱材又は保温材、接着剤の放散量 ※F☆☆☆☆
開口部等補修のための張付け用の接着剤の放散量 ※F☆☆☆☆

工法
断熱材打込み工法
断熱材 JIS A 9521に基づく発砲プラスチック断熱材
種類
厚さ(mm)
施工箇所

断熱材現場発泡工法
断熱材の種類
吹付け厚さ(mm)
施工箇所

断熱材後張り工法
断熱材 JIS A 9521に基づく発砲プラスチック断熱材
種類
厚さ(mm)
断熱材にせっこうボード等を張り付けたベネ
材質
厚さ
張り付け工法
断熱材の張り付け工法
断熱材へのボードの張り付け工法

6 屋上緑化改修工事[G] (9.4.2~4)

植栽基盤及び材料
屋上緑化軽量システム
芝及び地被類の種類等
見切り材、舗装材、排水管、マルチ材等
(品質・性能・試験方法)別表による

工法
建築基準法に基づき定まる
かん水装置
既存保護層の撤去
新植した芝及び地被類の枯保障の期間

7 透水性アスファルト舗装改修工事 (9.5.2~5, 9)

適用範囲: 歩道
既存舗装の撤去及び再利用
路床

Table with 3 columns: 種類, 材料, 厚さ(mm). Rows include 盛土, 凍上抑制層, and フィルター層.

凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験
行う
行わない

路床安定処理
安定処理の方法
路床安定処理用添加材料
種類
添加量
目標CBRを満足する添加量の確認方法

ジオテキスタイル
単位面積質量
厚さ(mm)
引張強さ
透水係数

試験
路床土の支持力比(CBR)試験
現場CBR試験
路床締固め度の試験

路盤
厚さ
材料
粒度調整砕石
再生クワックラン

舗装の構成
開閉度アスファルト混合物等の抽出試験
舗装の平坦感性

10章 ユニット及びその他工事 (20.2.2)

1 フリーアクセスフロア (20.2.2)

Table with 6 columns: 施工箇所, 工法, 寸法(mm), 高さ(mm), 耐震性能, 所要荷重(N), 表面仕上材, 備考.

寸法精度
標準仕様書20.2.2(2)(f)(a)~(c)による
以下による
ベネ長さの寸法精度
ベネの平面形状(角度)の寸法精度
アクリル樹脂の高さの寸法精度
帯電防止性能
感電防止性能

2 移動間仕切 (20.2.3)

Table with 5 columns: 構造形式による種類, 構成材料の種類, ベネ表面仕上げ, 遮音性(db/500Hz), 防火性能.

ベネ内に取付ける建具
あり
なし
ベネ内に取付ける家具のドアノブ、丁番、錠前、上落若しくは、標準仕様書16章8節の建具用金物に対応する材質とする。
表面仕上げ材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による。
ベネ材料の放散量

3 移動間仕切 (20.2.4)

Table with 5 columns: 走行方向, 操作方法による種類, ベネ圧接装置の操作方法, 総厚さ(mm), ベネ表面材, 遮音性(db/500Hz).

ベネ表面仕上げ材の壁紙張りの品質、性能は標準仕様書19章による。
ベネの取付け下地の補強
取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する
ベネを天井に取り付ける部品
天井に加わる重量の5倍以上の荷重に耐えられるもの
ベネレール及びフラッシュ
取付け全重量の5倍の荷重を、ベネ1枚に使用するフラッシュ数で除した値に対して、耐力及び変形量が使用上支障のないもの
(品質・性能は別表による)

4 トイレブース (20.2.5)

Table with 3 columns: 表面材の材料, 脚部種類, ドアノブ材質.

5 手すり (20.2.6)

材料の種類及び仕上げ
SUS304
表面処理
鋼製 表面処理
表面処理(標準仕様書表14.2.2による種別)
76ニム製
表面処理(標準仕様書表14.2.1による種別)
色合い
標準色
特注色
手すりの握り部分
材料の種類
表面仕上げ
直径(mm)
取付箇所
備考

6 階段滑り止め (20.2.7)

材料
形状
端部の形状
寸法(幅)
取付け工法
ステンレス製
黄銅製押出型材
76ニム製押出型材
タイプ型(タイプ材質:ゴム又は合成樹脂)
フットエンドあり
フットエンドなし
35mm程度
40mm程度
50mm程度
接着工法
埋め込み工法

7 黒板及びホワイトボード (20.2.9)

黒板
区分
種類
色
おひざり

8 鏡 (20.2.10)

取付箇所
寸法(mm)
厚さ(mm)

9 表示 (20.2.11)

衝突防止表示
設置場所
形状・寸法
材質
設置しない
誘導標識、非常用出入口等の表示
消防法に適合する市販品
室名札、ヒトケラ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等
(案内用記号はJIS Z 8210による)

10 タラップ (20.2.12)

材質及び仕上げ
SUS304
スリップ止め加工
鋼製 表面処理
溶融亜鉛めっき
標準仕様書14.2.2による種別

11 煙突サイン (20.2.13)

適用安全使用温度
工法

12 ブラインド (20.2.14)

Table with 6 columns: 形式, 操作方法, 操作方法の種類, スラットの種類, スラット幅(mm), ぶっスレーブの材質, 幅・高さ・取付箇所.

縦型ブラインドの材料
76ニム製 焼付け塗装仕上げ
76ニム製 消防法で定める防火性能の表示がある特殊樹脂加工
ポリエーテル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は[G]とする。

13 ロールスクリーン (20.2.15)

Table with 4 columns: 操作方法, スクリーンの材質, その他の材料, 幅・高さ・取付箇所, 品質.

14 カーテン (20.2.16)

Table with 4 columns: 形式, 開閉操作, ひだの種類, 生地の種類、品質、特殊加工等, 取付箇所, 備考.

生地の仕様
消防法で定める防火性能の表示があるもの
ポリエーテル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は[G]とする。
暗幕タイプの両端、上部及び召合せの重なり
300mm以上

15 カーテンレール (20.2.16)

材料による区分
76ニム製又は76ニム合金の押出成型材
76ニム製
強さによる区分
10-90
仕上げ
76ニム
形状
角形

16 ブラインドボックス及びレールボックス (20.2.16)

溝深さx長さ(mm)
90x150
120x80
120x150
150x80
図示
材質
集成材
仕上げ
76ニム製
押出し型材(市販品)
標準仕様書14.2.11による種別
色合い
標準色
特注色
鋼製
仕上げ

17 天井点検口 (20.2.16)

Table with 4 columns: 材質, 寸法, 形式, 外枠, 内枠.

18 床点検口 (20.2.16)

Table with 4 columns: 材質, 寸法, 形式, 備考.

19 耐震リフト (20.2.16)

Table with 5 columns: 方向, 幅(mm), タイプ, 耐火性能, 防水性能, 備考.

Table with 3 columns: 目地, 内壁, 外壁.

20 止水板 (20.2.16)

形式
差込式
据置式
壁張り式
施工箇所
図示

21 エキスパンションジョイント金物 (20.2.16)

建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による。

22 くつきマット (20.2.16)

Table with 3 columns: 材質, 受け枠, 備考.

23 流し台ユニット (20.2.16)

Table with 4 columns: 材質, 寸法(mm), W, D, H, 備考.

品質・性能
外観は、JIS A 4420「キッチン設備の構成材」の4.1.1による。
構成材は、JIS A 4420の8により試験を行ったとき、表1の規定による。
形状
図示

24 旗竿 (20.2.16)

Table with 5 columns: 材質, 形式, 高さ(m), 操作方法, 固定方法, 備考.

25 旗竿受金物 (20.2.16)

Table with 2 columns: 旗竿の材質, 旗竿受金物の材質.

26 止りめさく (20.2.16)

Table with 4 columns: 形式, 材質, 柱径、肉厚(mm), 高さ(m).

27 フェンス (20.2.16)

フェンスの種類
フェンスの高さ
フェンスの種類
フェンスの高さ

28 プレキャストコンクリート (20.3.3)(20.3.4)

コンクリートの設計基準強度
水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m3を満足する調査強度
図示
配筋
配筋を定めた計算書を監督職員に提出する
図示
取付け方法
図示

29 間知石及びコンクリート間知石 (20.2.16)

Table with 4 columns: 種類, 種類, 質量区分, 備考.

積み方
目塗り
伸縮調整目地
材質
厚さ

30 鋼製書架及び物品棚 (20.2.16)

Table with 3 columns: 規格等, JISによる種類, 備考.

31 屋内掲示板 (20.2.16)

枠の材質
表面の材質

32 洗面カウンター (20.2.16)

材質
奥行き(mm)

33 防煙垂れ壁 (20.2.16)

Table with 4 columns: 種類, 材質, 高さ(mm), 備考.

Table with 4 columns: 種類, 材質, 高さ(mm), 備考.

降下機構
煙感知器連動及び手動開放装置(埋込型)

34 屋外掲示板 (20.2.16)

照明器具
施錠
製造所

35 収納家具 (20.2.16)

合板類、MDF及びパーティクルボードの放散量
材質、形状、寸法

8章 耐震改修工事

1 適用範囲
改修標準仕様書 第8章 耐震改修工事
改修標準仕様書において第8章耐震改修工事以外の改修工事で第8章を引用している部分

2 既存部分の処理等
既存構造体の撤去
撤去範囲
はつり出した鉄筋及び鉄骨の処理
既存構造体コンクリートの目荒しの程度

既存杭の撤去等
撤去範囲及び撤去方法
杭頭部の処理
既存杭の補強
既存杭の健全性を確認する試験

8-1 鉄筋工事

Table with 4 columns: 種類の記号, 呼び径 (mm), JIS, 備考. Rows include SD295, SD345, SD45.

Table with 4 columns: 種類, 種類の記号, 鉄線の形状、網目、寸法、鉄線の径(mm), 適用箇所. Rows include 溶接金網, 鉄筋格子.

Table with 4 columns: 部位, 継手方法, 呼び径 (mm). Rows include 柱、梁の主筋, 耐力壁の鉄筋, その他の鉄筋.

継手位置
柱及び梁の主筋の重ね継手の長さ
耐力壁の重ね継手の長さ

4 鉄筋の定着
鉄筋の定着長さ
機械式定着工法
適用箇所
工法
必要定着長さ
補強筋形状
かぶり厚さ
品質確認
検査

5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(溶接金網含む)
最小かぶり厚さ
軽量コンクリートを用いる場合
耐久性上不利な箇所がある場合

6 圧接完了後の試験
超音波探傷試験

7 機械式継手

適用箇所
性能(H12建告第1463号に適合するもの)
種類
充填方式
端部ねじ加工継手
モルタル充填式継手
工法
品質の確認
検査
施工完了後の継手部の試験

8 溶接継手
適用箇所
性能(H12建告第1463号に適合するもの)
溶接継手の工法
施工完了後の継手部の試験

9 割製補強筋
形状
種類の記号
呼び径、曲げ直径、ピッチ

8-2 コンクリート工事

1 レディーミクストコンクリート工場
品質管理監督検査合格工場

2 コンクリート種類
コンクリートの種類
I 類 (JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート)
II 類 (JIS A 5308に適合したコンクリート)

3 コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度等
普通コンクリート

Table with 4 columns: 設計基準強度 (N/mm2), スランプ, 気乾単位容積質量 (t/m3), 適用箇所. Rows include 24, 21.

★印は構造体強度補正値(S)を適用しない
構造体強度補正値

Table with 4 columns: 設計基準強度 (N/mm2), スランプ, 気乾単位容積質量 (t/m3), 種類, 適用箇所. Rows include 21, 1種, 2種.

構造体強度補正値

4 セメント
種類
普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シキセメントA種又はフライアッシュセメントA種
高炉セメントB種[G]
フライアッシュセメントB種[G]

5 骨材
柱頭及び柱脚の隙間寸法
柱頭及び柱脚の隙間部間の骨材
既存柱外周部あと打ちコンクリート又は構造用モルタルの厚さ

6 混和材料
混和剤の種類
混和剤の種類

7 構造体用モルタル
圧縮強度
ワー値

8 量中コンクリート
構造体強度補正値(S)

9 マスコンクリート

適用箇所
セメントの種類
中熱ポルトランドセメント、低熱ポルトランドセメント、高炉セメントB種[G]
普通ポルトランドセメント、シキセメント
混和材
混和剤の種類
スランプ
構造体強度補正値

Table with 4 columns: 設計基準強度 (N/mm2), スランプ, セメントの種類, 適用箇所. Rows include 18, 15又は18.

11 流動化コンクリート
適用箇所

12 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地
打継ぎの位置
目地寸法
ひび割れ誘発目地の間隔、位置、形状、寸法

Table with 2 columns: 種別, 適用箇所. Rows include A種, B種, C種.

Table with 2 columns: 種別, 適用箇所. Rows include a種, b種, c種.

14 打増し厚さ(打直し仕上げ部)
打直し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る)
打直し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)

15 型枠
せき板の材料及び厚さ
断熱材の兼用
MCR工法用シート
スラブの材種

16 型枠の加工及び組立
シロコシをベアラーとして使用

17 コンクリートの打込み工法等
コンクリート打設工法の種類

Table with 3 columns: 補強工事, 工法の種類, 適用箇所. Rows include 現場打ちコンクリート壁の増設工事, 柱補強工事.

鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法での型枠等
柱頭及び柱脚の隙間の寸法
柱頭及び柱脚の隙間部間の骨材
補強後の仕上げ

8-3 鉄骨工事

1 鉄骨の製作工場
建築基準法に基づき性能評価を受けた製作工場

2 鉄骨製作工場における施工管理技術者
配置する

3 鋼材

Table with 3 columns: 種類の記号, 適用箇所(主要な部分), 規格. Rows include JIS規格による.

4 高力ボルト
ボルトの種類
ボルトの緑端距離、ボルトの間隔、ゲージ等
摩擦面の処理方法
すべり試験の実施

5 普通ボルト
ボルト及びナットの材料
ボルトの規格はJIS B 1180とする。
ボルトの種類は、呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする。

座金
ボルトの緑端距離、ボルト間隔、ゲージ等
母屋又は胴縁の取付けに使用するボルトの孔径

6 溶融亜鉛めっき高力ボルト
ボルトの緑端距離、ボルトの間隔、ゲージ等
摩擦面の処理方法
すべり試験の実施

7 アンカーボルト
構造用アンカーボルト
建方用アンカーボルト

ボルトの緑端距離、ボルトの間隔、ゲージ等
アンカーボルトのねじの公差域及び仕上げの程度
アンカーボルト及びワットのねじの公差域及び仕上げの程度

8 溶接材料
溶接材料

Table with 3 columns: 呼び名, 呼び長さ(mm), 適用箇所. Rows include 16, 19, 22.

9 スタッド
鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則6 [鉄骨精度検査基準]に加えて、次による
通しワッパの突合せ継手の食い違いの寸法

11 仮組
仮組を行う範囲

12 溶接作業を行う技能資格者の技量付加試験
試験の要領

13 溶接施工
開先の形状
鋼製ワッパを切断する部分
切断する箇所
切断範囲

14 入熱、バス間温度の溶接条件
鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件
適用箇所

15 溶接部の試験
平12建告第1464号第二号に関する外観試験方法
JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]の付表3 [溶接]に関する試験方法等

16 錆止め塗装 [7.3.3] (8.17.2, 4)

- 塗料の範囲
耐火被覆材の接着する面の塗装範囲 図示による
耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲 改修標準仕様書8.17.2.1(1)~(4)による
- 塗料の種類
下記以外の鉄鋼面は、7章「塗装改修工事」による
鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種類
※A種
耐火被覆材が接着する面の塗料の種類

17 耐火被覆 (8.18.2~8)

種類、材料、工法等	種類	材料、工法	性能(耐火時間)	適用箇所(部位・部分)
耐火材吹付け	-	乾式吹付けロックール	-	-
		半乾式吹付けロックール	-	-
		湿式ロックール	-	-
		-	-	-
耐火板張り	-	繊維混入けい酸セメント板	-	-
		-	-	-
耐火材巻付け	-	高断熱ロックール	-	-
		-	-	-
ラミネート塗り	-	-	-	-
		-	-	-
耐火塗料	-	-	-	-

18 アンカーボルトの設置等 [7.10.3]

- 構造用アンカーボルトの形状及び寸法 図示による
構造用アンカーボルトの形状及び寸法 図示による
建方用アンカーボルトの形状及び寸法 図示による
建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 種類 A種 B種
柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種類 厚さ
種類 ※A種 B種

19 鉄骨ブレース設置後の仕上げ (8.22.9)

- 図示による

20 あと施工アンカー (8.2.4)

- 材料等
金属系アンカー
引張耐力 () kN 図示による
せん断耐力 () kN 図示による
アンカー本体の径及び埋込み長さ 図示による
セット方式 ※本体打込み式改良型
接合筋の種類、径、長さ 図示による
性能確認試験 試験方法及び試験数 図示による
- 接着系アンカー
引張耐力 () kN 図示による
せん断耐力 () kN 図示による
アンカーの種類 ※90°回転打撃式
接着剤の品質 有機系 無機系
アンカーの径及び埋込み長さ 図示による
アンカーの種類
アンカーの新設壁内への定着の長さ 図示による
性能確認試験 試験方法及び試験数 図示による

穿孔 埋込み配管等の探査方法 (8.12.14)

- 鉄筋探知機(金属探知機)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う
はつり出しによる

施工確認試験 (8.12.7)

- 試験方法
引張試験機による引張試験
確認強度 図示による

21 柱底均しモルタル及びグラウト材 (8.2.12)

- 柱底均しモルタル ※無収縮モルタル
グラウト材
無収縮グラウト材の材質等
混和材 セメント系(酸化セメント及びポルチランドセメント等)によって膨張する性質を利用するものとする。
セメント JIS R 5210「ポルチランドセメント」に適合した普通または早強ポルチランドセメントとする。
砂 土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。

無収縮グラウト材の品質及び試験方法	
コンクリート	J-0による下落時間 練混ぜ完了から3分以内の値：8±2秒
ブリーディング	練混ぜ2時間後のブリーディング率：2.0%以下
凝結時間	凝結開始時間：1時間以上 終結時間：10時間以内
無収縮性	材齢 7日 収縮しない
圧縮強度	材齢 3日 20.0N/mm ² 以上 材齢 28日 40.0N/mm ² 以上
塩化物量	0.30kg/m ³ 以下
試験方法	1) NEXCO試験方法 試験法 312-1999「無収縮モルタル品質管理試験方法」による。 ブリーディングと現場調合形で混和材が同一の場合の試験はブリーディング形のみとする。 2) 塩化物量の試験は、JIS A1144「フレッシュコンクリートの水の塩化物(塩)濃度試験方法」による。

22 連続繊維シート (8.2.13) (8.24.6)

- 連続繊維の材料
炭素繊維
アラミ繊維
- 引張強度(含浸硬化後)
() N/mm²
ヤング係数(含浸硬化後)
() N/mm²

- 下地処理
ひび割れ部改修
範囲 図示による ()
工法の種類
柱及び梁の隅角部の面取りの大きさ 図示による ()

- 連続繊維補強材の強度試験
引張強度試験 (コンクリート用連続繊維シート)の引張試験方法による
試験数量 図示による ()
付着強度試験 JIS A 6909(建築用仕上塗材)による
試験数量 図示による ()

23 仕上げ (8.24.7)

- 補強工事後の仕上げ
図示による ()

24 耐震スリット的方式、幅及び深さ (8.25.2)

- 方式 完全 部分
幅及び深さ 図示による ()
設置箇所 図示による ()

25 耐震スリットの施工前の埋込み配管等の探査 (8.12.4)

- 部分撤去部の埋込み配管等の探査方法
鉄筋探知機(金属探知機)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う
はつり出しによる

26 耐震スリット充填材の挿入及び周囲補修等 (8.25.2)

- 耐火材
使用箇所及び仕様 図示による ()
遮音材
使用箇所及び仕様 図示による ()
撤去部の補修
撤去材と同一材で補修

27 埋戻し及び盛土 (8.28.3)

- 材料及び工法
材料 () 工法 ()
改修標準仕様書8.28.11による
A種 適用場所 ()
B種 適用場所 ()
C種 適用場所 () 土質 () 受渡場所 ()
D種 適用場所 ()
(品質 細粒分(75μm以下)の含有率(重量百分率)の上限を50%未満とする)

28 杭地業 (8.2.15) (8.28.4) [4.3.8]

- 支持層の位置及び土質(基礎ぐい先端位置含む) 図示による ()
杭の材料、工法、寸法、施工方法等 図示による ()
試験杭の位置、本数及び寸法並びに施工方法 図示による ()
杭の継手の個数、材料、工法等 図示による ()
杭の溶接接合
技術資格者の技量 図示による ()
溶接部の確認 図示による ()
杭頭の処理
処理しない
処理する
処理方法(切断にともなう補強方法含む) 図示による ()
杭頭の中詰め材料
基礎のコンクリートと同調のもの
杭の精度
水平方法の位置ずれ
杭径の1/4かつ100mm以下
評定等の評価内容による
建て込み時の杭の鉛直度
1/100以内
評定等の評価内容による
記録する施工状況等 図示による ()

29 砂利地業 (8.2.15) (8.28.4)

- 材料[G]
再生クワック
切込砂利又は切込砕石
砂利厚さ ※60mm

30 捨てコンクリート地業 (8.2.15) (8.28.4)

- 捨てコンクリートの厚さ ※50mm
コンクリートの種類 ※普通コンクリート
設計基準強度 ※18N/mm²
スラブ ※15cm又は18cm

9章 その他

- 1 残土処理について
建設発生土処分については沼津市指定処分とする。
処分受け入れ業者については下記業者・静岡県建設発生土処理施設一覧より選定し、施工計画書に明記すること。また、工事完了後に受入業者が交付する「建設発生土に関する完了届」を完成書類に添付し提出すること。
なお、公共事業における残土の工事間流用等疑義が生じた場合、別途監督職員と協議するものとする。

建設発生土受入業者	処理場所
駿河開発株式会社	田方郡函南町軽井沢213
株式会社東土建	沼津市足高字尾上241-460・241-461
日建建設株式会社	沼津市島谷字宮下190-1 他
渡辺ブルドーザー工事株式会社	富士市大瀬第2027-2 他
株式会社加藤建材	富士市大瀬字昔曾比奈6861

2 提出書類

- 適用範囲
1 現場代理人通知書
2 予定工程表
3 請負代金内訳書
4 工事カルテに係る書類
5 施工体制台帳
6 施工計画書
7 再生資源利用計画書(計画書)、工程表含む
8 施工承諾書
9 工事工程月報(予定工程を黒、実施工程を朱書きで記入)
10 完成届出書
11 完成写真帳(完成前後を左右にして確認できるよう整理)
12 請負工事関係書類整備状況調査書
13 実施工程表(予定工程を黒、実施工程を朱書きで記入)
14 工事記録簿
15 材料検査簿
16 工程写真帳
17 試験表
18 諸官庁手続きの写し
19 再生資源利用計画書(実施書)
20 産業廃棄物に関する書類(マニフェスト等)
※原則、マニフェストは電子とする。
21 完成図
22 その他の書類

10章 工事カルテ特記仕様書

- 工事カルテ特記仕様書
1 受注者は、受注時または変更時において工事請負代金額が500万円以上の工事について、工事実績情報サービス(GORINS)に基づき、受注・変更・完成・訂正時に工事実績情報として「登録のための確認のお願い」を作成し、監督職員の確認を受けたうえ、受注時は契約後、土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内に、登録内容の変更時は変更があった日から土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内に、完成時は工事完成後10日以内に、訂正時は適宜、登録機関に登録しなければならない。登録対象は工事請負代金額500万円以上の全ての工事とし、受注・変更・完成・訂正時にそれぞれ登録するものとする。
なお、変更登録時は、工期、技術者に変更が生じた場合に行うものとし、請負代金のみ変更の場合は、原則として登録を必要としない。
また、登録後は「登録内容確認書」の写しを直ちに監督職員に提出しなければならない。なお、変更時と完成時の間が10日間に満たない場合は、変更時の提出を省略できるものとする。
2 契約金額の変更登録は、完成時のみとする。
3 契約変更により工事請負代金額が500万円未満になった場合は、速やかに契約変更前の工事登録を削除しなければならない。

11章 重要事項



株式会社 竹村設計
一級建築士事務所登録(10)第2200号
一級建築士登録第90632号竹村嘉次
沼津市大瀬町四丁目5番17号
TEL(062)0259 FAX(062)7048

DESIGN NAME 令和6年度 駅前立体駐車場西面外壁他改修工事 設計図
SHEET NAME 建築改修工事特記仕様書(9)

DATE R6.11
SHEET NO A-10
SCALE Non Scale
全A40葉の内

C-1	C-2	C-3	C-4	C-5
SC-1	SC-3	PROPER NO.	SHEET NAME	
R6.06.01改訂				